Ｎｏ．５２９【２０２２年１１月１１日配信】
荒川小学校「創立五十年記念碑」の碑文を揮毫した谷山成章（担当：村上亜弥）

こんにちは。歴史資料室の村上亜弥です。

現在、歴史資料室では企画展示「学び舎の思い出―学校旧跡めぐり 2」を行っています。この展示では学校に関する石碑をいくつか紹介しています。今回はその中から荒川小学校の「創立五十年記念碑」（大正 12 年〈1923〉建立）に関する話題をお届けします。

荒川小学校の「創立五十年記念碑」

碑文によると、石碑の文字を揮毫したのは青森県師範学校教員の谷山成章（1859－1939）です。この人物については『青森県人名事典』（東奥日報社　2002 年）に項目がなく、経歴がはっきりしませんでした。そこで、展示にあたって調べたところ、さまざまな職業を経験した人物であることがわかりました。

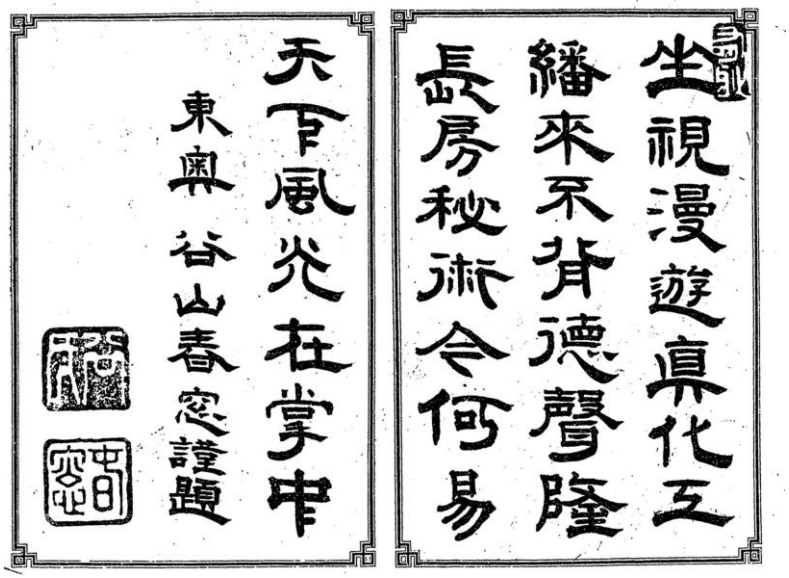
谷山は弘前出身で、東奥義塾を卒業後、明治 12 年（1879）青森県師範学校に入学しました。卒業後は小学校教員を務め、明治 20 年代には収税官吏（税務署職員）となっています。五所川原税務署や青森税務管理局に勤務した後、長井税務署（現山形県長井市）や田名部税務署（現むつ市）で署長を務めました。さらに、大正 2 年（1913）には川内村（現むつ市川内町）の第 3 代村長に就任し、大正 6 年 10 月の町制施行後は初代町長となり、大正 10 年まで務めています。

町長を退任したあとは大正 14 年まで母校・青森県師範学校の教員を務めました。担当教科は習字でした。谷山が『青森県師範学校六十周年記念誌』（1937 年）に寄せた「追憶三題」という文章では、教員時代を振り返り、鶴岡重治校長が全校生徒マラソンに参加して 126 着になったというエピソードを紹介しています。

その後は兵庫県姫路市へ移って新聞事業に携わり、昭和 14 年（1939）4 月 9 日に亡くなりました（昭和 14 年版『東奥年鑑』東奥日報社　1939 年）。但し、新聞事業の詳細についてはわかりませんでした。

さて、谷山について『東奥人名録』（青森交詢社　1913 年）には「漢文を能くし又書に巧みなり春窓と号す」と記されており、昭和 4 年版『東奥年鑑』（東奥日報社　1928 年）には「書は其の詩と共に珍重」されていたとあります。

国立国会図書館デジタルコレクションをみてみると、例えば佐藤天外編『名士と風流』（盛陽堂　1900 年）には谷山の漢詩が、上田維暁『内国旅行　日本名所図絵』第五巻（青木嵩山堂　1889 年）には谷山の書が掲載されています。また、小山内時雄『近代諸作家追跡の基礎』（津軽書房 1981 年）によると、明治 21 年に青森県内で発行された『田舎新誌』や『学友通信』という雑誌にも作品を発表しています。谷山は学校教員や税務署職員、村長・町長など多様な仕事に携わる一方、書家・漢詩人としても積極的に活動していたのです。



谷山春窓（成章）の書
（上田維暁『内国旅行　日本名所図絵』第五巻、
国立国会図書館デジタルコレクション）